

# 西沢潤一先生講演会「科学と独創性～21世紀の私たち～」

第1回清陵サイエンスフォーラム21が9月5日(木)、13:00より諏訪文化センターで開かれました。

約1時間半の講演、その後3時から約30分間懇談会が行われました。講演では、自分の中に眠っている才能・能力を見つけることへの努力、また自分の才能を見抜いてくれる先生との出会いの大切さを自分の経験を元に話していただきました。さらに science は人間との関係が重要であるということ、自分で発見すること・考えることの大切さを説かれました。また、講演後の懇談会では、ダム建設の問題や先のメダル受賞を巡ってのエピソード、あるいは今の受験は暗記だけで「考える」ことを抑制してしまい、「考える」力を失わせてしまう、すなわち暗記するが使いこなせないのだと指摘されました。生徒、一般の方の感想を以下にのせました。

「普段の生活を見直そうと思った。わからないことをごまかさないと、あきらめずにコツコツ努力する。必ず誰にもまねできない自分一人の才能があるのだから。」(三年)

「成果は一日では上がらない。でも一ヶ月、一年と続けていけば必ず成果はついてくる。自分の中に眠る才能を見つけだすためにはいろいろな人との関わりを経て見つけられるものだと思います。才能を見つけるまであきらめてはいけません。」(二年)

「講演の前の演奏がよかった。」(一般)

「時代の先をゆく頭脳、技術と現実の世間の意識との差が残念です。もっと日本も外国にばかり目を向けなくて、国内の優秀な科学者に応援をすべきだと思います。研究、開発をしたい人がどんどん海外へ流出していくような感じで気になります。日本の科学者も頑張っているなあと思いました。」

(一般)

なお、この様子は後日LCVで放映されることを連絡しましたが、放映日が変更になりました。以下の通り訂正します。

10月27日

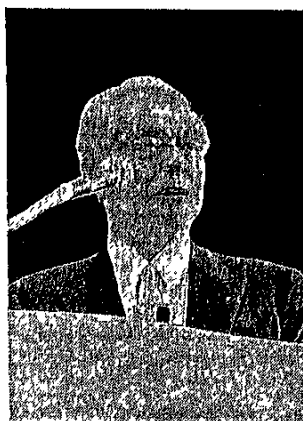
9:30～

13:00～

19:00～

23:15～

<H14.9.6 信濃毎日新聞>



科学と独創性をテーマに講演する西沢潤一氏—諏訪市

諏訪清陵高校(諏訪市)は五日、文部科学省の指定を受けたスーパーサイエンスハイスクール(SSHS)事業の一環として、信濃毎日新聞夕刊コラム「今日の視角」の筆者も

諏訪清陵高  
SSH事業

西沢潤一さん講演

「師との出会い大切に」

のノーベル賞」と呼ばれるエシソンメダルを受賞。それでも「できるかならない」といふ(企業)資金を出してくれな

心を開き入った。半導体や光通信の研究の第一人者である西沢さんは、物理学者の長岡半太郎ら世界的な功績を残した研究者を例に「決して出来のいい生徒ではなかった」と指摘。「自分の可能性を見抜いてくれる先生との出会いを大切に、一人ひとりが天分を咲かせてほしい」と激励した。

西沢さんは二〇〇〇年に「電気 電子工学分野

# 藤原正彦先生講演会「創造的人間になるためには」

第2回清陵サイエンスフォーラム21が9月30日(月)、14:45より本校小体育館で開かれました。

具体的で豊富な例を挙げられながら、創造的人間になるためには、バカになることが必要で、そのためには 楽観的であること、 野心をもつこと、 執拗であることが、大切であるという趣旨の講演をしていただきました。

以下、生徒の感想をあげておきます。

- ・ 何か、話を聞いていて、「私に言ってるよ」という気持ちになってしまうぐらい、ドキッとしました。(一年)
- ・ 清陵出身の先輩達が、様々な分野で活躍していると聞いて、すごくうれしく、自分が清陵生であることに、より一層誇りを感じました。(一年)
- ・ 人生最大の敵は、自分自身であるという言葉がじーんときました。(一年)
- ・ 今後の人生に役立つような興味深い話が聞けたと思います。特に「どんな天才でも努力をしない天才はいない」という言葉と「努力をすれば必ず何かしら自分の役に立つ」という言葉がすごく印象的でした。(二年)
- ・ 家に帰って、昔の清陵の記録を見ていると、藤原先生がおっしゃっていた三人の中でも一番勉強ができた人のテストの結果が載っていて、愕然としてしまいました。何と全テストの点数を平均しても、優に90点を超えていたのです。それをみて、やっぱりすごかった人なんだなあと感心しました。(二年)
- ・ 無性に勉強したくなかったし、よい機会だと思った。(二年)
- ・ 理系の人に限った話ではなく、文系の自分にも役立つ内容でよかった。(二年)
- ・ 人生の先輩に教わるということは、必要だと思いました。なかなか聞ける話ではないので、貴重な体験になりました。(二年)

なお、LCVでの放映の予定はなくなりましたので、御了承下さい。

## 1年生文理分けの講座での授業始まる

一年生は、生徒の希望を重視した文理分けの講座編成をし、文系106名、理系140名で後期の授業が始まりました。

理系は「ときめきサイエンス」で、信大、理科大、エプソン等の講師を招いた授業展開が開始されます。また、文系は、古典で『源氏物語』の入門の授業としてグループ別に調べて発表する授業、世界史で「戦後日本を世界史からみる」というテーマでの授業が始まりました。

一年の学年会では、「生徒が入学当初の緊張感を取り戻したようだ」という担当者からの意見が述べられ、まずまずの滑り出しのようです。

## 第3回サイエンスフォーラム21のお知らせ

11/12(火)に、本校で1、2年生を対象に、第三回清陵サイエンスフォーラム21が、花岡清二先生(セイコーエプソン(株)専務取締役)を講師にお招きして開催されます。今回の講師の花岡先生は本校OBで、東北大学機械工学科を卒業後、エプソンに入社。プリンタ開発設計に従事し、高画質インクジェットプリンタや入出力機器の企画、開発の責任者も務められてきました。今回は「研究開発に大切なもの」というテーマで、講演していただきます。